

展示期間 2007年12月3日～12月22日  
展示場所 図書館ブラウジングルーム/AV資料室

## 「安らかな死、婚礼の喜び」 ～バッハのカンタータ2名曲～

12月13日(木)に行われる演奏会に伴い、カンタータ第106番《神の時》と、  
本学がオリジナル・パート譜を所蔵しているカンタータ第216番  
《満たされたプライセの町よ》に関する資料を展示します。

5ページより、本学教授礪山雅先生のカンタータ第106番の参考資料が  
掲載されております。演奏会の鑑賞にご利用下さい。

### 目次

- 2 カンタータ第106番《神の時》
- 5 カンタータ第106番の台本の出典について（礪山雅）
- 9 カンタータ第216番《満たされたプライセの町よ》
- 12 バッハのカンタータに関連する図書

## カンタータ第 106 番 (神の時) BWV106

初演：1707 年、又は 1708 年 ミュールハウゼン

\* 成立の経緯は不詳。

作詞：作者不詳。旧約と新約の聖句をたくみに綴り合わせるテキストの構想は、ヨハネス・オレアーリウス（17 世紀ルター正統派の神学者、バッハがその蔵書を所有）の『キリスト者の祈りの学校 Christliche Bet=Schule』（ライプツィヒ 1668）とヨハン・レオン Johann Leon 作、死と永遠を歌うコラール《私は私の事を神に委ねた Ich hab mein Sach Gott heimgestellt》（1582/1589）に由来する。もとになる台本は、ルター訳のドイツ語聖書とルター派讃美歌（コラール）から章句を選んで、巧みな構想のもとに配置したものである。

自筆譜、オリジナル・パート譜は紛失。バッハの死後作成された筆写総譜で伝承。重要なのは次の 3 つ。

- A . ベルリン国立図書館 Mus.ms.Bach P1018 (1768 年ライプツィヒ、最古のもの)
- B . ベルリン国立図書館 Am. B.43 (18 世紀後半、プロイセン王女所蔵)
- C . ベルリン国立図書館 Mus.ms.BachP90 (19 世紀初頭、ジングアカデミー所蔵の筆写譜 (紛失) から筆写)

A と B は、ミュールハウゼンで用いられていたピッチの特殊性を反映して、リコーダーがへ長調、他の楽器と声楽は変ホ長調で書かれている（C はいずれも変ホ長調）。なお、旧全集（ヴィルヘルム・ルスト校訂、1876 年）はオルガンの高いピッチ（コアトーン：変ホ長調）、新全集（樋口隆一校訂、1986 年）は管楽器の低いピッチ（カンマートーン：へ長調）でスコアを統一しているため、曲は見かけ上、2 つの調で流布している。

磯山雅〔ほか〕編著『バッハ事典：全作品総覧事典』（東京書籍 1996）より抜粋（請求記号 C62-877）

### バッハの初期教会カンタータ

「教会カンタータ Kirchenkantate」という用語が使われはじめたのは、比較的最近のことである。バッハ時代、「カンタータ」といえば、もっぱら（器楽伴奏付きの）独唱カンタータをさしていた。バッハ自身も「教会カンタータ」という呼び方はしておらず、主に「コンチェルト Concerto」と呼んでいる。バッハの死後 1754 年にライプツィヒの雑誌に掲載された『故人略伝』（カール・フィリップ・エマーヌエルと弟子アグリーコラが執筆）の作品リストでは「教会楽曲 Kirchenstück」と表記されている。

『故人略伝』の記述によれば、バッハは生涯にカンタータを教会暦 5 年分作曲したとされており、今日に伝承されているだけでも、その数は 200 曲に達している。

バッハのカンタータの創作は、遅くともミュールハウゼン時代（1707-1708 年）に開始されている。バッハは 1707 年 6 月 15 日（22 歳の時）に、前任者の病没によって空席になったミュールハウゼンにある聖ブラジウス教会のオルガニストの契約を交わした。6 月 29 日にアルンシュタットを正式に辞職した後、ミュールハウゼンに着任した。バッハはこの地で教会音楽の整備に力を入れ、少なくとも 5 曲の教会カンタータを作曲した。曲の形式は、聖句（各礼拝日に朗読される箇所と関連する）、新作の自由詩（しばしば有節形式をとる）、そして教会歌を相互に配置するのが基本的であった。この時期のカンタータの特色としては、音楽様式にのちの作品のようなダ・カーポ・アリアの使用といったイタリア・オペラの影響がまだ見られず、北ドイツの伝統的な教会音楽様式や、オルガン音楽の書法の影響が色濃く認められる点や、歌詞に特定のまとまりが見られる点などが挙げられる。

初期のカンタータ作品とはいえ、内容は充実しており、『キリストは死の縄目につながれたり』BWV4 のように高い人気を誇っている作品が含まれている。

## 展示資料

### 楽譜

Eleven great cantatas : in full vocal and instrumental score from the Bach-Gesellschaft edition  
New York : Dover Publications 1976 請求記号 H12-576

**旧バッハ全集のリプリント。調性は変ホ長調（調号は変ロ長調）。**

Kirchenkantaten verschiedener, Teils unbekannter Bestimmung

Kassel : Bärenreiter c1986 請求記号 A8-761

**新バッハ全集第1作品群第34巻、『種々の目的のための教会カンタータ』。調性はヘ長調。**

Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit : (Actus tragicus)

nach der Ausgabe der Bach-Gesellschaft revidiert und mit Einföhrung versehen von Arnold Schering

Leipzig : Eulenburg [pref. 1927] 請求記号 E0-325

**調性は変ホ長調（調号は変ロ長調）。**

Kantate no. 106 : Gottes Zeit : God's own time : Actus tragicus

English translation by C. Sanford Terry ; Kontinuobearbeitung von Arthur Willner

Wien : Universal Edition [19--] 請求記号 E9-155

**調性は変ホ長調。**

Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit : Actus tragicus : BWV 106

English version by J. Michael Diack

Leipzig : Breitkopf & Hartel [19--] 請求記号 F1-728

**調性は変ホ長調（調号は変ロ長調）。**

《カンタータ第106番：追悼式：神の時はいとただし》：BWV 106

Klavirauszug von Otto Schröcher ; 大村恵美子訳詞

東京バッハ合唱団 2000 請求記号 F21-581

**大村恵美子訳による日本語歌詞付き。調性は変ホ長調（調号は変ロ長調）。**

Largo : dalla cantata "Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit" : Actus tragicus

per violino (o viola) e pianoforte trascrizione di Antonio Janigro

Milano : G. Ricordi 1949 請求記号 H0-494

**序奏の部分をヴァイオリン（ヴィオラ）とピアノ用に編曲した楽譜。**

## 録音資料

Greta de Reyghere, soprano ; James Bowman, countertenor ; Guy de Mey, tenor ; Max van Egmond, bass ; Ricercar Consort (on period instruments) 1990年録音 請求記号 XD12773

グスタフ・レオンハルト、通奏低音オルガンおよび総指揮、レオンハルト合奏団、ハノーヴァー少年合唱団、コレギウム・ヴォカレ、他 1980年録音 請求記号 XD21499

ジョン・エリオット・ガーディナー指揮、イングリッシュ・バロック・ソロイスト、モンテヴェルディ合唱団、他 1989年録音 請求記号 XD21700

カール・リヒター指揮、ミュンヘン・バッハ管弦楽団、ミュンヘン・バッハ合唱団、他 1966年録音 請求記号 XD34851

ジョシュア・リフキン指揮、バッハ・アンサンブル、他 1985年録音 請求記号 XD3805

ヘルマン・シェルヘン指揮、ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・アカデミー室内合唱団、他 1952年録音 請求記号 XD41982

ヘルムート・リリング指揮、シュトゥットガルト・バッハ・コレギウム、他 1975年録音 請求記号 XD45235

大村恵美子指揮、東京カンタータ室内管弦楽団、東京バッハ合唱団、他 2000年録音 請求記号 XD51523

鈴木雅明指揮、バッハ・コレギウム・ジャパン、他 1995年録音 請求記号 XD51578

## 展示パネル

ワイマール宮廷楽師長時代のバッハ(?) ヨーハン・エルンスト・レンチュ作(?)

1715年の肖像 カンタータ第106番を作曲した翌年にワイマールへ移った

Johann Ernst Rentschd.Ä.(?)作 / Bach als Weimarer Konzertmeister(?) / Ölbild um.1715

出典:Werner Naumann "Bildwerke zur Lebensgeschichte Johann Sebastian Bachs" Kassel: Bärenreiter, 1979 請求記号 C44-610 p15 B6

## ミュールハウゼン銅版画

1710年ごろのミュールハウゼン。ホーマンの銅版画。

出典:ミハエル・コルト、シュテファン・クールマン編著；三宅幸夫、山地良造訳『バッハ：図像と証言でたどる生涯』

音楽之友社, 1990 請求記号 C53-971 p21

## ミュールハウゼン聖ブラジウス教会

13世紀に創設され、一対の高い塔をもつ建築は、今日までほとんど変わっていない。

出典:ミハエル・コルト、シュテファン・クールマン編著；三宅幸夫、山地良造訳『バッハ：図像と証言でたどる生涯』

音楽之友社, 1990 請求記号 C53-971 p23

## 聖ブラジウス教会の新しいオルガン（ヴェンダー製作）

バッハは1707年の復活祭にこの教会のオルガンを試奏し、6月15日に教会オルガニストに採用された。オルガン演奏だけでなく教会音楽全体の改善にも強い関心を抱き、弟子の協力を得て教会用声楽曲の整備や、オルガンを大幅に改造する案を提出した。ヴェンダーが製作した新しいオルガンの完成を見ないうちに、バッハはミュールハウゼンを去った。

出典:樋口隆一著『バッハ』（新潮文庫 カラー版作曲家の生涯）新潮社, 1985 請求記号 C43-982 p52

## ミュールハウゼン市参事会辞任許可願い

1708年6月25日、バッハがミュールハウゼン市参事会に提出した辞表。

「...私が常にめざしておりましたのは、神の栄光のために、そして皆様の御意志に従いつつ、整った教会音楽を築き上げること、また微力ながら、近隣のほとんどすべての村々に育ちつつあり、また往々にして当地よりも上等に響くこともある教会音楽を援助することでありました。そのために、特別の予算がないにもかかわらず、選り抜かれた教会音楽の楽譜を広く各地より集め、欠陥あるオルガンの補修計画を提出し、またその他、職務の命ずるところはすべて喜んで従ってまいりました。しかしながらそれは反対なしに実行することは不可能であり、しかも目下のところ、事態が好転しようというきざしすらほとんどないというありさまです。もっとも将来は、この教会に属する教区民の満足がゆくようになるとは存じますが。さらに付け加えることを許されるならば、私の生活がいくらつましいとはいえ、家賃を払い、その他きわめて必要な出費をすましますと、ぎりぎりの生活しかできないのでございます...」

訳：樋口隆一

写真出典:ミハエル・コルト、シュテファン・クールマン編著；三宅幸夫、山地良造訳『バッハ：図像と証言でたどる生涯』

音楽之友社, 1990 請求記号 C53-971 p27

日本語訳出典:樋口隆一著『バッハ』（新潮文庫 カラー版作曲家の生涯）新潮社, 1985 請求記号 C43-982 p53

カンタータ第106番 1768年ライプツィヒ、最古の筆写総譜の冒頭部分

カンタータ第106番 18世紀後半、プロイセン王女所蔵筆写総譜の冒頭部分

リコーダーがへ長調、他の楽器と声楽は変ホ長調で書かれている。(出典:ベルリン国立図書館)

カンタータ第106番 19世紀初頭 シングアカデミー所蔵の筆写譜(紛失)から筆写した筆写総譜の冒頭部分  
いずれも変ホ長調で書かれている。(出典:ベルリン国立図書館)

ヨハネス・オレーリウス(17世紀ルター正統派の神学者、バッハがその蔵書を所有)の『キリスト者の祈りの学校 Christliche Bet=Schule』(ライプツィヒ1668)の原本の写真

写真出典: "J. S. Bachs Gebetbuch? Ein Fund am Rande einer Ausstellung" 1985, Vol. 55 n5, p233 請求記号 P0181 55(5)

## カンタータ第106番の台本の出典について(磯山雅)

---

### 歌詞対訳

#### 第1曲 ソナティーナ

第2曲a 合唱「神の時は最良の時」

Gottes Zeit ist die allerbeste Zeit.

神の時は最良の時。

In ihm leben, weben und sind wir,

神において私たちは生き、動き、存在する、(使徒言行録 17.28)

solange er will.

神の望まれる間。

In ihm sterben wir

神において私たちは死ぬ、

zur rechten Zeit. wenn er will.

しかるべき時、神の望まれる時に。

第2曲b アリオソ(テノール)「ああ主よ、教えてください」

”Ach, Herr, lehre uns bedenken,

「ああ主よ、教えてください、

daß wir sterben müssen,

私たちが死なねばならぬことを。

auf daß wir klug werden.“

そして私たちが賢くしてください。」(詩篇 90.12)

第2曲c アリア(バス)「家を整理しておきなさい」

”Bestelle dein Haus!

「家を整理しておきなさい(遺言しなさい)。

Denn du wirst sterben

なぜなら、お前は死に、

und nicht lebendig bleiben.“

生き長らえることはないのだから。」(イザヤ 38.1)

第2曲d 合唱と器楽コラール「古い契約にこうある」

”Es ist der alte Bund:

「古い契約にこうある。

Mensch, du mußt sterben!

人よ、汝は死ぬ定めなり、と。」(シラ書 14.17)

S ”Ja, komm, Herr Jesu!“

「そうです。来てください、主イエスよ！」(ヨハネ黙示録 22.20)

第3曲a アリア(アルト)「御手に、私の霊を委ねます」

”In deine Hände befehl ich meinen Geist;

「御手に、私の霊を委ねます。

du hast mich erlöset,

あなたは私をあがなってくださいました。

Herr, du getreuer Gott.“

主よ、まことなる神よ。」(詩篇 31.6)

第3曲b アリオソ(バス)「今日、お前は私とともに天国にいるであろう」  
"Heute wirst du mit mir im Paradies sein."  
「今日、お前は私とともに天国にいるであろう。」(ルカ 23.43)

第3曲c コラール(アルト)とアリオソ(バス)「安らかに喜びつつ私は逝く」

A. Mit Fried und Freud ich fahr dahin

安らかに喜びつつ私は逝く、  
In Gottes Willen,  
神に望まれて。  
Getrost ist mir mein Herz und Sinn,  
私の心と思いは慰められ、  
Sanft und stille.  
穏やかにして、静か。  
Wie Gott mir verheißen hat:  
神が私に約束して下さった通り、  
Der Tod ist mein Schlaf worden.  
死は私の眠りとなったのだ。

[ M . ルター作詞の同名コラール ( 1524 ) 第 1 節 ]

B. "Heute wirst du mit mir im Paradies sein."

「今日、お前は私とともに天国にいるであろう。」(ルカ 23.43)

第4曲 コラール合唱「栄光、讃美、誉れと栄華が」

Glorie, Lob, Ehr und Herrlichkeit  
栄光、讃美、誉れと栄華が  
Sei dir, Gott Vater und Sohn bereit,  
あなたに備えられますように、父にして子なる神  
Dem heiligen Geist mit Namen!  
聖霊と呼ばれる神よ。  
Die göttlich Kraft  
神からの力が  
Macht uns sieghaft  
私たちを勝利に導くのです、  
Durch Jesum Christum, Amen.  
イエス・キリストによって。アーメン。  
[ A . ロイスナー作詞コラール「われ汝に依り頼む、主よ」(1533)第7節 ]

台本のモデル:オレアーリウスの死をめぐる祈り

ヨハネス・オレアーリウスの『キリスト者の祈りの学校』の中にある、「幸いな終わりをめぐる日々のため息と祈り」。聖句の抜粋によって、祈りが構成されている。以下に引用するが、番号は磯山による。

- 1 . 家を整理しておきなさい / なぜなら、お前は死に、生き長らえることはないのだから。  
(イザヤ 38.1)
- 2 . 古い契約にこうある / 人よ、汝は死ぬ定めなり、と。(シラ書 14.18)
- 3 . 私はこの世を去り、キリストのもとにいたいと願っている。(フィリピ 1.23)
- 4 . そうです。来てください、主イエスよ。(ヨハネ黙示録 22.20)
- 5 . 御手に、私の霊を委ねます /
- 6 . あなたは私をさがってくださいました / 主よ、まことなる神よ。(詩篇 31.6)
- 7 . 今日、お前は私とともに天国にいるであろう。(ルカ 23.43)

- ・祈りを7つに分けると、「十字架上の7つの言葉」に似た、キアスムス(十字架型)の構成が見えてくる。中心は4である。1(神の言葉)と7(イエスの言葉)が、外枠として対応する。BWV106の台本がこれに基づいていることは明らかである。第2曲cから第3曲bまでの歌詞が1~2, 4~7に一致する。
- ・台本作者(とバッハ?)は、3を省略した。その結果、4の「そうです」は、2を受けることになっている。省略の理由については後述。
- ・台本作者は、1の前と7の後に、まとまったテキストを加えている。その構想は、どこから来たのであろうか?
- ・省略された3にほぼ対応するところで、バッハは器楽にコラールを引用している。このコラールが、追加歌詞の隠れた源泉になっている。

隠れた第2のモデル、レオンのコラール

死と永遠を歌うコラール《私は私の事を神に委ねた Ich hab mein Sach Gott heimgestellt》ヨハン・レオン Johann Leon 作、1582/1589年

1. 私は私の事を神に委ねた、  
神が私の事を、意のままにしてください。  
この世でこれ以上生きるべきでないのであれば  
逆らうことなく  
神のご意志に、私は身を委ねる。  
(第2曲を支配する「神の意志」が歌われている)
2. 私の時と刻は 神の望まれるとき。  
(Mein Zeit und Stund ist, wann Gott will; )  
私は神に対して尺度も目的も定めない。  
私の髪の毛はことごとく数えられている、  
太いものも、細いものも。  
神のご意志なしには、何ものも滅びない。
3. この世は悲しみの谷、  
不安、困窮、憂いが随所にある。  
滞在の時は短く  
労苦と悩みに満ちている。  
そのことを思う者は、つねに戦いの中にある。
4. 富もお金も財産も助けにならぬ、  
技術も愛顧も誇り高い勇気も。  
死に対しては手の施しようがない。  
信仰深いキリスト者よ、  
生きる者は皆、死すべき定めなのだ。
5. 今日、私たちが生気にあふれ、健康で強くとも  
明日には死して棺桶に横たわる。  
今日、私たちが赤いバラのように盛んでも  
病んで死ぬときは近い。  
いたるところ、労苦と困窮なのだ。
6. ひとり、またひとりと運ばれては  
目から、心から去ってゆく。  
世界は私たちをじきに忘れる、  
若かろうと老いていようと、  
蓄れがさまざまであろうとも。
7. ああ主よ、私たちによく心にかけるよう教えてください、  
Ach Herr, lehr uns bedenken wohl,  
私たちがいつ死ぬかわからないことを。  
daß wir sind sterblich allzumahl,

私たちはここに留まることはできないのだ、  
みなそこから去らねばならぬ、  
学や豊かさを問わず、老いと若きを問わず、美しさを問わず。  
(テノール・アリア2 bにおける詩篇の引用がここから着想された)

8. 事がこうなったのは罪のためだ、誠なる神よ、  
罪を通じて辛い死がやってきた。  
死は人の子すべてを取って食らう、  
獲物をいったん見つけ出せば  
階級も栄誉も問わないのだ。  
(罪の概念はカンタータには出てこないが、背後に踏まえておくとう理解しやすい)

9. 私にはこの世でいい日は少ない、  
私の日々のパンは労苦にして嘆き。  
私の神の望まれるとき、私はともに  
平安のうちに逝こう、  
死は益であり、私を損なわない。  
(第3曲におけるシメオン・コラールの引用がここから着想された)

10. たとえ罪が私に打ちかかっても  
それでも私は怯えないつもりだ、  
私は知っている、まことなる私の神は  
死に瀕した私のために  
最愛の息子を与えてくださったのだ。  
(アルト・アリア3 a後半部と同趣旨)

11. それこそいついかなる時も私の慰め、  
十字架と悲しみにおいてさえ。  
私は知っている、私は最期の日  
いかなる嘆きもなしに  
私の墓から甦るだろう。

12. 私の愛する神の御顔を  
私は見ることだろう、  
それを私は疑わない、  
永遠の喜びと幸せの中で。  
それこそ私に備えられたもの。  
神に讃美と称讃が永遠にあるように。  
(最終コラールの選択がここから着想された)

このコラールには、厭世的な死生観が明瞭に打ち出されている。バッハは、オレアーリウスの祈りのみでは肯定的に過ぎると感じ、「私はこの世を去り、キリストのもとにいたいと願っている」という端的な死への願望を削除して、このコラールの世界と合体させたのではなからうか。それによってカンタータ台本は、単なる神讃美にとどまらない、陰影と興行きを獲得することになった。このコラールに歌詞を付けることもできたであろうが、それをせず、背後にしのばせたのが、青年バッハの構想だったと思われる。

## カンタータ第 216 番 (満たされたプライセの町よ) BWV 216

初演：1728年2月5日 ライプツィヒ

\* 聖トーマス教会脇のワイン酒場、シェルハーファー・ハウスで行われたライプツィヒの商人ヨハン・ハインリヒ・ヴォルフ Johann Heinrich Wolff (1690-1759) とツィッタウ(ドイツ東端の町)の関税官の娘ズザンナ・レギーナ・ヘンペル(曲中では「ヘンペリン」) Susanna Regina Hempel (1708-79) の結婚式。

《マタイ受難曲》の台本作者として知られるピカンダーの台本は、ソプラノにナイゼ川、アルトにプライセ川の役割を与えている。

あらすじ：ツィッタウを流れるナイゼは、自分の流域から美女が奪われることを嘆く。一方ライプツィヒを流れるプライセは、配下の水の精たちとともに、新婦を喜び迎える。両者は言い争った挙げ句に和し、ともども婚礼を祝う。

作詞：クリスティアン・フリードリヒ・ヘンリーツィ

Christian Friedrich Henrici (筆名ピカンダー Picander, 1700-64)

第 1 曲 満たされたプライセの町よ(2重唱アリア:ソプラノ、アルト)

プライセ：満たされたプライセの町[ライプツィヒ]よ、

ナイゼ：恵まれたナイゼの町[ツィッタウ]よ、

プライセ：あなたの爽やぎは他のすべての町にまさって増し、輝く！

ナイゼ：あなたの華やぎは他のすべての町にまさって増し、輝く！

プライセ：あなたの輝かしさを日々楽しむ者は

ナイゼ：あなたの美しさを日々楽しむ者は

両者：あなたに魅入られて離れることがない、

これ以上心に叶うところなど、どこにもあり得ないのだから。

訳：礒山雅

この曲の自筆総譜は消失しており、声楽部のみではあるが初演のために作成された筆写パート譜が現存している。筆写を担当したのは、バッハに相似する筆跡のトーマス学校生のクリスティアン・ゴットローブ・マイスナー Christian Gottlob Meißner (1707-60)、ジョシュア・リフキンによる器楽声部の復元により、2005年3月20日、サントリーホール小ホールで復元版世界初演が行われた。

『満ち足れたプライセの町: BWV 216: オリジナル・パート譜ファクシミリ版』(東京書籍 2005)より抜粋 (譜番号 J104-948)

### 世俗カンタータ

18世紀初期の世俗カンタータは、イタリア風バロック・オペラの影響を強く受けており、音楽を構成するのはオペラと同様レチタティーヴォとアリアで、アリアは多くの場合ダ・カーポ形式(ABA)をとっていた。

バッハの世俗カンタータの作曲は、ライプツィヒ時代の中期に集中している。それらはさまざまな機会のために、すなわち君主(誕生日や新年祝賀、あるいは歓迎式典用)、教師(教授就任祝賀用)やトーマス学校長のため、あるいは、送別、亡き人を偲ぶため、といった機会に作曲・上演された。さらに結婚披露宴用のカンタータも好んで作られた。それは教会における宗教儀式としての婚礼のための音楽とは別に、晴れの日の喜び溢れた社交の場を彩った。

オリジナル・パート譜伝承の経緯

所有者	補足
カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ Carl Philipp Emanuel Bach (1714-88)	バッハの次男、作曲家
ゲオルグ・ベルヒャウ Georg Poelchau (1773-1836)	ベルリンの自筆譜蒐集家
アーロイス・フックス Aloys Fuchs (1799-1853)	ウィーン帝室王室宮廷楽団員 簡単な注釈を施したカバーページ、筆写譜(チェンバロ伴奏付) 歌詞写稿を作成。
ジギスムント・タールベルク Sigismund Thalberg (1812-71)	ドイツのピアニスト
1872年、タールベルクの死後、ロンドンで競売にかけられ、以後消息不明、旧バッハ全集(1850-1901)の出版に取り入れられなかった。(歌詞のみ掲載)	
ローベルト・フォン・メンデルスゾーン Robert von Mendelssohn (1857-1917)	ベルリンの銀行家
ローベルトの死後、ヴェルナー・ヴォルフハイム Werner Wolffheim によって出版譜が作成され、1924年ベルリンのローベルト・リーナウ社から刊行された。この後、消息不明、新バッハ全集(第1作品群第40巻、『結婚カンタータ/種々の目的のための世俗カンタータ』、1968年)の校訂には筆写譜と出版譜が使われた。	
ガスパール・カサド Gaspar Cassadó (1897-1966)	スペインのチェリスト
2003年、カサドの妻、原智恵子(ピアニスト、1914-2001)の遺品から発見され、国立音楽大学が購入。	

展示資料

楽譜

Cantata no. 215 : Preise dein Glücke, gesegnetes Sachsen ; 216, Vergnügte Pleissen-Stadt (Text only)

New York : E. F. Kalmus c1968 請求記号 E0-505

旧バッハ全集のリプリント、オリジナル・パート譜が当時消息不明だったために、歌詞のみ掲載。

Hochzeitskantaten und Weltliche Kantaten verschiedener Bestimmung

Kassel : Bärenreiter c1969 請求記号 A0-120

新バッハ全集第1作品群第40巻『結婚カンタータ/種々の目的のための世俗カンタータ』オリジナル・パート譜が当時消息不明だったために、校訂には筆写譜と出版譜が使われた。オリジナル・パート譜発見後の調査の結果、新全集版にも改めるべき点の少なくないことが明らかになっている。

Vergnügte Pleissen-Stadt Hochzeits-Kantate für Sopran und Alt

Berlin-Lichterfelde : Robert Lienau ; New York : C. F. Peters, c1924 請求記号 H14-793

1924年、ベルリンのローベルト・リーナウ社から刊行された出版譜のリプリント。作曲家ゲオルグ・シューマン Georg Schumann 補作による器楽声部付。編成は2本のフルート、オーボエ、チェロ、ピアノ。

『満ち足りたプライセの町 : BWV 216 : オリジナル・パート譜ファクシミリ版』

東京書籍 2005 請求記号 J104-948

結婚カンタータ「満ち足りたプライセの町」の独唱パート譜 (SA)

歌詞: ドイツ語; テキスト: ドイツ語 (英語および日本語対訳付)

作詞: クリスティアン・フリードリヒ・ヘンリーツィ (筆名ピカンダー)

国立音楽大学創立80周年記念出版

クリスティアン・ゴットロープ・マイスナーによる筆写譜からの複製 (原智恵子旧蔵)

解説: 磯山雅 (本学教授) 鑑定報告: 小林義武 (成城大学教授) (日本語、ドイツ語、英語)

### ・ソプラノ・パート譜

第1ページ下の欄外に、ベルリンの自筆譜蒐集家ゲオルグ・ペルヒャウ Georg Poelchau (1773-1836) の筆跡で「ヨハン・ゼバスティアン・バッハの自筆による (Von Johann Sebastian Bachs eigener Hand)」という記入がある。

### ・アルト・パート譜

パート譜の音楽用語のイタリア語はラテン書体で、歌詞はドイツ語の筆記体で書かれている。出版楽譜との間には、語の省略、語の付加、語の入れ替えといった異同が、若干ではあるが認められる。

### ・19世紀の所有者、アーロイス・フックス Aloys Fuchs (ウィーン、1799-1853) が付けた簡単な注釈を施したカバーページ

「ここにある、偉大な楽匠ヨハン・ゼバスティアン・バッハにより自筆で書かれた2つの声楽用パート譜は、バッハが友人ヴォルフと身許確かな『ヘンペリン』の婚礼の折に作曲した式典用カンタータの一部である。この貴重な自筆譜は、1836年に亡くなったベルリンの友人、ゲオルグ・ペルヒャウの名高いコレクションに由来する。ペルヒャウは、ハンブルクのC.Ph.エマーヌエル・バッハの音楽遺産の大部分を手に入れたが、そこには、ゼバスティアン・バッハのオリジナル手稿が多数含まれていた。それは現在、ベルリン王室宮廷図書館の最高の宝のひとつとなっている。ウィーン、1846年11月。この記載が正しいことを、帝室王室宮廷楽団の一員、アーロイス・フックスが保証する。」

The Newly Recovered and Reconstructed Wedding Cantata of J.S.Bach

J.S.バッハの「結婚カンタータ」復元コンサート(世界初演)パンフレット

【東京公演】2005年3月20日(日・祝)、21日(月・休)15:00 開演 サントリーホール・小ホール

主催：サントリーホール / 国立音楽大学 / 毎日新聞社 音楽監督・おはなし：礒山雅

J.S.バッハの「結婚カンタータ」復元コンサート(世界初演) 歌詞対訳 訳：礒山雅

礒山雅：バッハの幻の楽譜 発見さる

〈にたち音信 通巻22号 2004年6月 国立音楽大学 請求記号 P1828 (22)

数奇な運命 驚きと興奮 バッハ楽譜発見 「音楽の父」から夢の贈り物

毎日新聞朝刊 2004年4月3日(土)

バッハの「幻のカンタータ」 復元初演に高い評価

毎日新聞夕刊 2005年12月6日(火)

特集 バッハの楽譜 幻のバッハ 世界復元初演コンサートについての記事

毎日新聞朝刊 2005年1月9日(日)

### 録音資料

ジョシュア・リフキン指揮、バッハ・コンチェルティーノ大阪、他 2005年録音 請求記号 XD56424

ジョシュア・リフキンによる復元版世界初演ライヴ録音

### 展示パネル

ケーテン宮廷楽長時代のバッハ(?) (1717年8月5日に任命された) ヨーハン・ヤーコプ・イーレ作  
1720年の肖像 カンタータ第216番作曲の8年前

Johann Jakob Ihle 作 / Bach als Köthener Hofkapellmeister(?) / Ölbild um.1720

出典: Werner Neumann "Bildokumente zur Lebensgeschichte Johann Sebastian Bachs"

Kassel: Bärenreiter, 1979 請求記号 C44-610 p15 B7

カンタータ第216番の歌詞 作詞：ピカンダー

**バッハがライプツィヒにいた時に、数多くの作詞をしている。**

出典:Werner Neumann “Bilddokumente zur Lebensgeschichte Johann Sebastian Bachs”

Kassel : Bärenreiter, 1979 請求記号 C44-610 p209 339

カンタータ《選ばれたプライゼの町よ》BWV216a 手稿歌詞

出典:Werner Neumann “Bilddokumente zur Lebensgeschichte Johann Sebastian Bachs”

Kassel : Bärenreiter, 1979 請求記号 C44-610 p209 340

結婚式にカンタータを贈られたバッハの友人ヴォルフに関する記事が記載された印刷物

出典:Werner Neumann “Bilddokumente zur Lebensgeschichte Johann Sebastian Bachs”

Kassel : Bärenreiter, 1979 請求記号 C44-610 p209 341

カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ(1714-88) 1733年の肖像

**バッハの次男。カンタータ第216番の楽譜を最初に所有していた。3年間ライプツィヒ大学で法学を学び、学業を続けながら、音楽の教師を務めたり、祝典的な催しの際に作曲や指揮をして収入を得ていた。**

出典:ミハエル・コルト、シュテファン・ケルマン編著；三宅幸夫、山地良造訳『バッハ：図像と証言でたどる生涯』

音楽之友社, 1990 請求記号 C53-971 p111

バッハ “幻の譜” 80年ぶり発見 300年前初演「結婚カンタータ」

毎日新聞朝刊 2004年4月3日(土)

## バッハのカンタータに関連する図書

---

Christoph Wolff(hrsg) ; Ton Koopman(Vorwort) "Die Welt der Bach-Kantaten"

Bd. 1. Johann Sebastian Bachs Kirchenkantaten

Bd. 2. Johann Sebastian Bachs weltliche Kantaten

Bd. 3. Johann Sebastian Bachs Leipziger Kirchenkantaten.

Stuttgart : Metzler ; Kassel : Bärenreiter, 1996-1998 請求記号 J82-540/(1),J85-042/(2),J88-674/(3)

**1994年に開始されたトン・コープマンとアムステルダム・バロック管弦楽団のカンタータ全曲録音プロジェクトに参加した、クリストフ・ヴォルフを中心とするバッハ研究者による論文集。**

上記の図書の日本語翻訳書：磯山雅監訳 『バッハ=カンタータの世界』

1. 教会カンタータ. アルンシュタット~ケーテン時代 東京書籍, 2001 請求記号 C65-701
2. 世俗カンタータ 東京書籍, 2002 請求記号 J94-419
3. 教会カンタータ. ライプツィヒ時代 東京書籍, 2002 請求記号 J97-201

磯山雅著 『バッハ・カンタータの森を歩む / 1. マリアの3祝日』

東京書籍, 2004 請求記号 J101-499

本学教授磯山雅先生が企画した「バッハ・コンチェルティーノ大阪」の演奏記録を付録とする形のカンタータの解説・研究書。第1巻は「マリアの祝日」にちなむカンタータ7曲 (BWV83, 125, 82, 182, 1, 147, 10) を扱っている。総論 「いま、カンタータとは」を収録。付録として7曲のディスコグラフィと、カンタータ3曲 (BWV125, 82, 147) の音源のCD付き。

磯山雅著『バッハ・カンタータの森を歩む / 2. 『マタイ福音書』によるカンタータ. 1』  
東京書籍, 2006 請求記号 J106-938

本学教授磯山雅先生が企画した「バッハ・コンチェルティーノ大阪」の演奏記録を付録とする形の  
カンタータの解説・研究書。第2巻は「マタイ福音書」と深い関係のあるカンタータ7曲  
(BWV138, 99, 51, 89, 115, 55, 140)を扱っている。総論「カンタータは何人で歌われたか」を収  
録。付録として7曲のディスコグラフィーと、カンタータ3曲(BWV51, 55, 140)の音源のCD付き。

F. スメント、P. ミース著；角倉一朗、高野紀子訳『バッハのカンタータ』(バッハ叢書；6)  
白水社, 1980 請求記号 J106-759

スメントとミースによるバッハのカンタータ個別研究を3つの著作から集めたもの。

樋口隆一著『バッハ カンタータ研究』

音楽之友社, 1987 請求記号 C43-682

新バッハ全集校訂者のひとりである著者によるカンタータ研究のモノグラフィ。

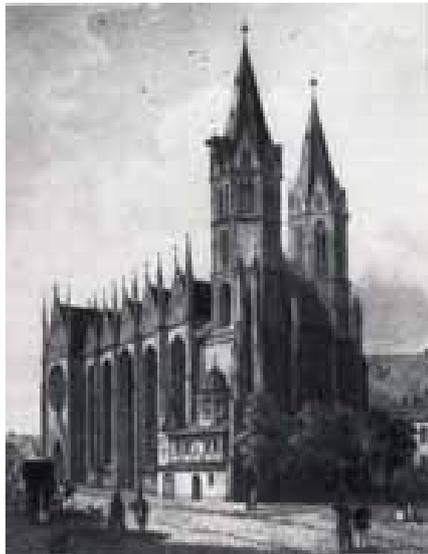
#### 2つのカンタータの作曲前後を中心としたバッハの略歴

年月日	事項
1685年3月21日	ヨハン・ゼバスティアン・バッハ、アイゼナハに誕生。
1703-1707年	アルンシュタット新教会のオルガニストを務める。(18-22歳)
1707年6月15日	ミュールハウゼンの聖ブラジウス教会のオルガニストに採用される。
1707-1708年	ミュールハウゼン聖ブラジウス教会のオルガニストを務める。 (22-23歳) [教会・オルガン=パネル]
1707、又は1708年	カンタータ第106番(神の時)初演(22、又は23歳)
1707年10月17日	ドルンハイムでマリア・バルバラと結婚。
1708年6月25日	ザクセン=ワイマール公ヴィルヘルム・エルンストの 宮廷オルガニスト兼宮廷楽師に任命される。
1708年6月25日	ミュールハウゼン市参事会に辞職願を提出。 [辞職願=パネル]
1708-1717年	ワイマールにて宮廷オルガニスト兼宮廷楽師 のちに宮廷楽師長として活動。(23-32歳) [肖像パネル]
1710年11月22日	長男ヴィルヘルム・フリーデマン誕生。
1714年3月8日	次男カール・フィリップ・エマヌエル誕生。 [肖像パネル]
1717年8月5日	アンハルト=ケーテン侯の宮廷楽長として契約。
1717年11月6日	ワイマール宮廷に辞任を強要したかどで身柄を拘束される。
1717年12月2日	身柄拘束を解かれるとともに、ザクセン= ワイマール公宮廷の任務からも解放される。
1717-1723年	アンハルト=ケーテン侯レオポルドの宮廷楽長兼 音楽監督として活動。(32-38歳) [肖像パネル]
1723年4月	アンハルト=ケーテン侯レオポルドに辞職願を提出。
1723年5月5日	ライプツィヒにおいて雇用契約書に署名。
1723-1750年	ライプツィヒのトーマス教会カントル兼音楽監督として活動。(38-65歳)
1728年2月5日	カンタータ第216番(満たされたプライゼの町よ)初演。(43歳)
1750年7月28日	ライプツィヒにて死去。

参照：『バッハ：図像と証言でたどる生涯』 音楽之友社, 1990 請求記号 C53-971

図書館展示 12月 2007

## 「安らかな死、婚礼の喜び」 ～バッハのカンタータ2名曲～



ミュールハウゼン聖ブラジウス教会

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)  
<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>

2007/12/12 編集 国立音楽大学附属図書館広報委員会 : 高田涼子・三宅巖